



学校だより 11月号

令和5年10月27日
横浜市立日限山小学校
〒233-0015

【学校教育目標】「力を合わせ 笑顔が光る日限の子」

港南区日限山二丁目16番1

日限の子の笑顔が光る運動会に

副校長 江目 典子

いよいよ明日は運動会です。今日まで子どもたちは、代表委員会で話し合い決定した運動会テーマ「We are friends! 6 Higiri! ～たてわりで一丸となって 心を燃やそう～」に向かって、練習に励んできました。私は幸せなことに、子どもたちと職員が、演技や競技をゼロから創り上げていく過程を見ることができました。常にやる気に満ちていた子、徐々にやる気が出てきた子、様々です。最初は不安そうな表情で周りに合わせていた子が、練習を重ねるごとに真っすぐ前を見て、笑顔で踊るようになった姿もありました。

どの子にとっても、明日の運動会が、「自信」や「自己有用感（誰かの役に立っていると思える感情）」の高まりにつながる行事であってほしいと願います。そのためには、大人の「価値づけて褒めること」が大切だと考えています。

運動会では勝敗がはっきりする場面が多いです。子どもたちには「勝利」を目指して、全力を尽くしてほしいですし、きっと、子どもたちは練習の成果を出そうと全力で取り組むことでしょう。半面、特に高学年の子どもたちは、「勝利」が全てではないことも理解していると思います。しかし、結果や自分自身の満足度によっては、悔しい思いや、もやもやした気持ちが残るかもしれません。

保護者の皆様や地域の皆様には、勝った子にも悔しい思いをした子にも、ぜひ、がんばっていた姿、感動した姿、協力していた姿、友達を思いやっていた姿など、具体的な姿を挙げて価値づけ、大いに褒めてほしいと思います。価値づけのポイントは、「結果だけでなく努力や過程を含めて前向きな言葉で」「大人の基準で枠にはめたり人と比べたりせずに」です。

例えば、苦手な団体演技をがんばった子に、「何回も練習したんだね。踊りがそろっていて、とてもきれいだったよ。苦手なことでも最後までやり遂げることは、力になるね。」

運動会の係活動をがんばっていた子には、「〇〇係、がんばっていたね。どの係も大切で、全校のみんなのために仕事をしていて、うれしかったよ。」などです。

自分のがんばりや努力が認められることが、「自信」や「自己有用感」につながり、笑顔も増えます。そして、次への挑戦の意欲も高まります。

明日は運動会日和のようです。

10月13日(金)に配信しました「運動会の開催にあたってのお知らせ」をご確認いただくとともに、当日は、これまで子どもたちが練習を重ねてきた姿を想像しながら、温かい声援を送っていただけましたら幸いです。

子どもたちと保護者、地域の皆様、職員が力を合わせ、日限の子の笑顔が光る一日となりますように。